

18歳意識調査 「第41回 - 国政選挙 -」要約版

日本財団 2021年9月30日

目次

調査概要	3
21年衆院選の選挙権があることについての認知	6
21年衆院選の投票予定	7
投票する理由	8
投票しない理由	9
政治や選挙の情報源	10
政治や選挙に関する授業	11
政治や選挙に関する授業で受けた授業内容	12
政治や選挙に関する授業は役に立ったか	13
政治や選挙の授業で魅力に感じる内容	14
若者の投票率に関する意見について	15
若者の投票率を高めるための改革や改善について	16
社会問題重要度	17
回答者プロフィール	19

調査概要「18歳意識調査」 - 国政選挙 -

調査対象 全国の17歳～19歳男女

回答数 916
※下記の割付にて回収

	17歳	18歳	19歳	計
男性	19	219	220	458
女性	19	219	220	458
計	38	438	440	916

調査除外 下記の関係者は調査から除外
印刷業・出版業/マスコミ・メディア関連/
情報提供サービス・調査業/広告業

実施期間 2021年8月12日（木）～8月16日（月）

調査手法 インターネット調査

※注記：調査協力者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

※注記：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

提示文章

この調査では、2021年に実施される衆議院議員選挙について伺います。
この調査は、現在満18歳以上の方および2021年10月末日までに満18歳になる方に表示されています。

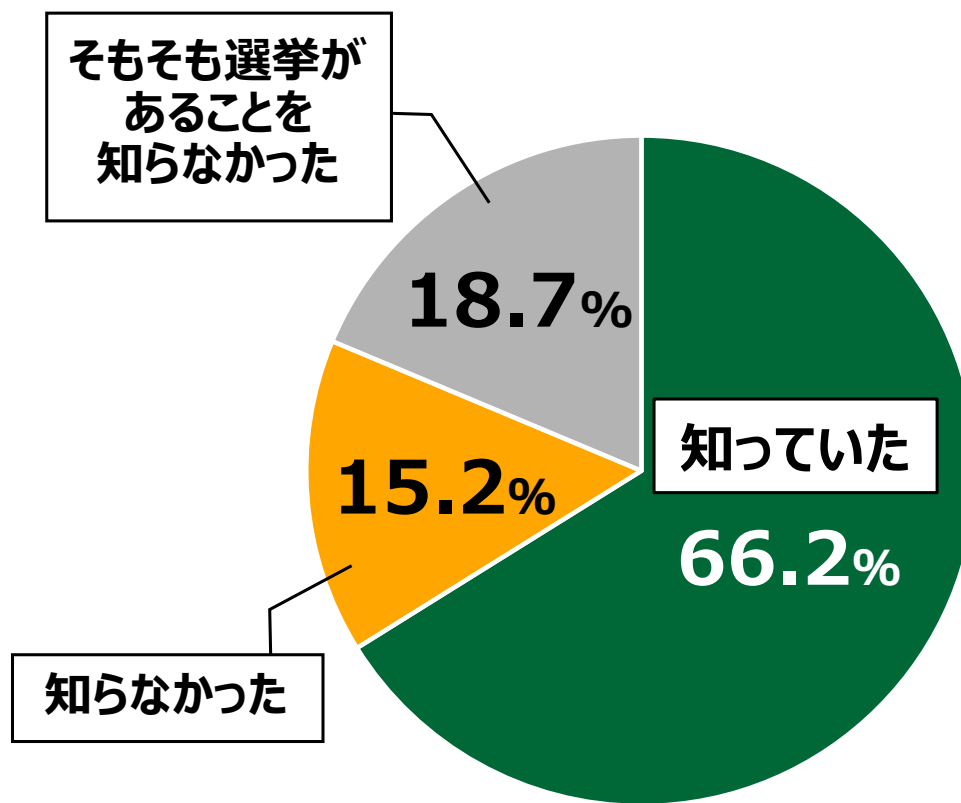
日本では、投票日の翌日が18歳の誕生日である人までが選挙権を有します。この調査の実施時点では、実際の投票日はまだ決まっていますが、あなたにも選挙権があるという前提で回答を行ってください。

要約

21年衆院選の選挙権があることについての認知

2021年の衆院選の選挙権があることについて、66.2%が「知っていた」と回答。「知らなかった」は15.2%。「そもそも選挙があることを知らなかった」は18.7%。

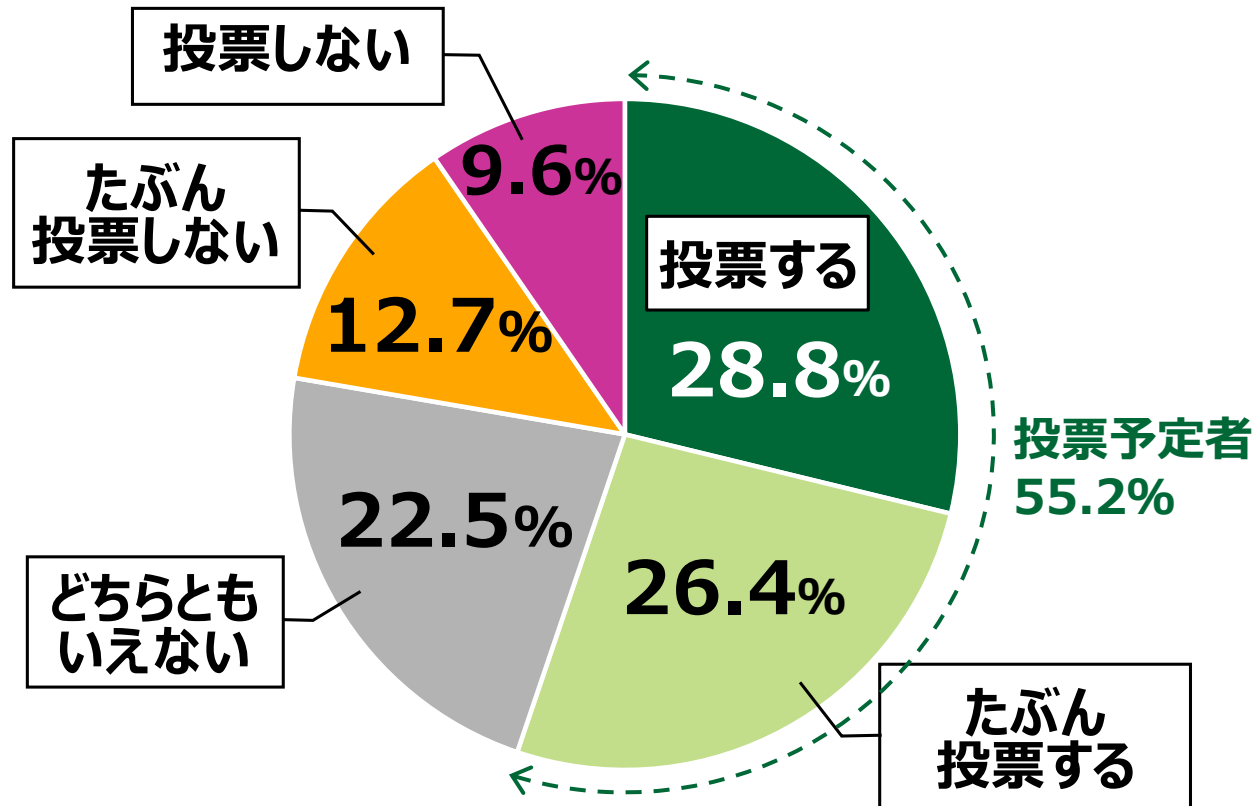
Q 2021年に実施される衆議院議員選挙について、自分も投票できること、又は投票日によっては投票できることを知っていましたか。(n=916)



21年衆院選の投票予定

2021年の衆院選は「投票する」28.8%、「たぶん投票する」26.4%と、投票予定がある割合は55.2%。

Q 2021年に実施される衆議院議員選挙について、投票する予定はありますか。
あなたにも選挙権があるという前提で回答を行ってください。(n=916)



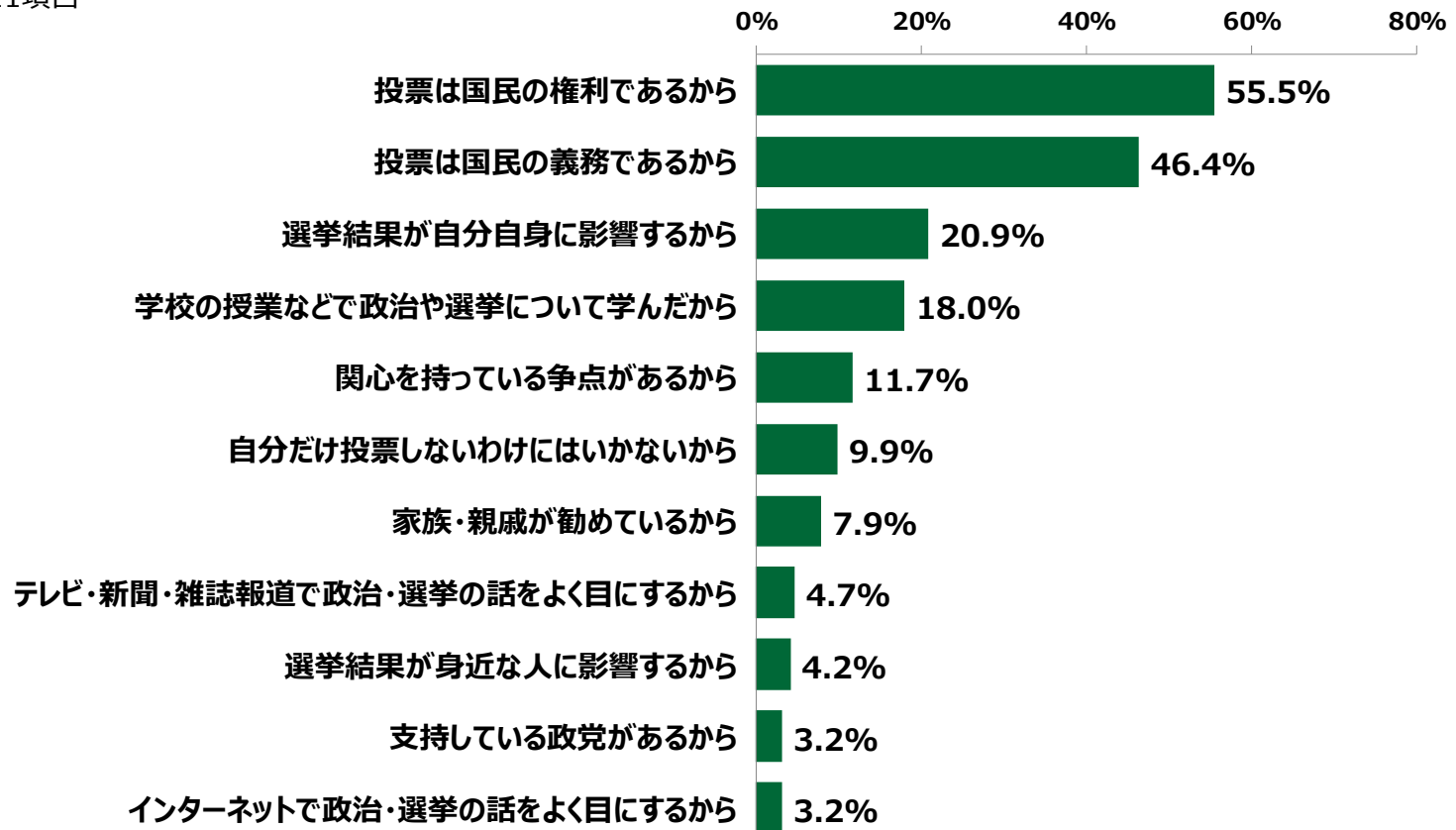
投票する理由

投票する理由は「投票は国民の権利であるから」（55.5%）、「投票は国民の義務であるから」（46.4%）という理由が多い。ほか、「選挙結果が自分自身に影響するから」（20.9%）、「学校の授業などで政治や選挙について学んだから」（18.0%）、「関心を持っている争点があるから」（11.7%）が上位に挙がる。

■ 「投票する」「たぶん投票する」回答者

Q 投票する、たぶん投票すると回答した理由として、あなた自身にとって特に重要度が高いものを、最大3つまで選択してください。（複数回答 3つまで）（n=506）

※上位11項目



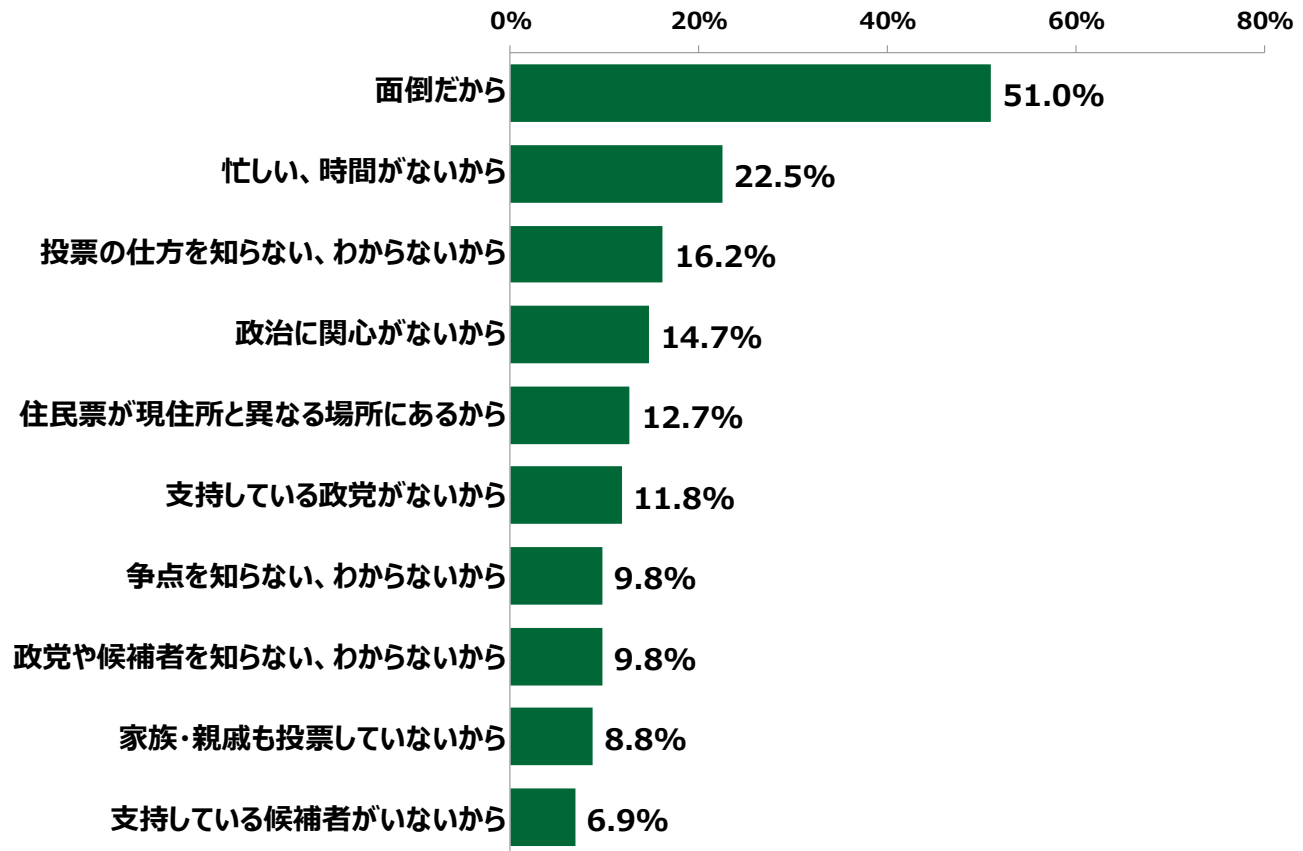
投票しない理由

投票しない理由は、「面倒だから」(51.0%)が最多。ほか、「忙しい、時間がないから」(22.5%)、「投票の仕方を知らない、わからないから」(16.2%)、「政治に関心がないから」(14.7%)などが上位に挙がる。

■ 「投票しない」「たぶん投票しない」回答者

Q 投票しない、たぶん投票しないと回答した理由として、あなた自身にとって特に重要度が高いものを、最大3つまで選択してください。(複数回答 3つまで) (n=204)

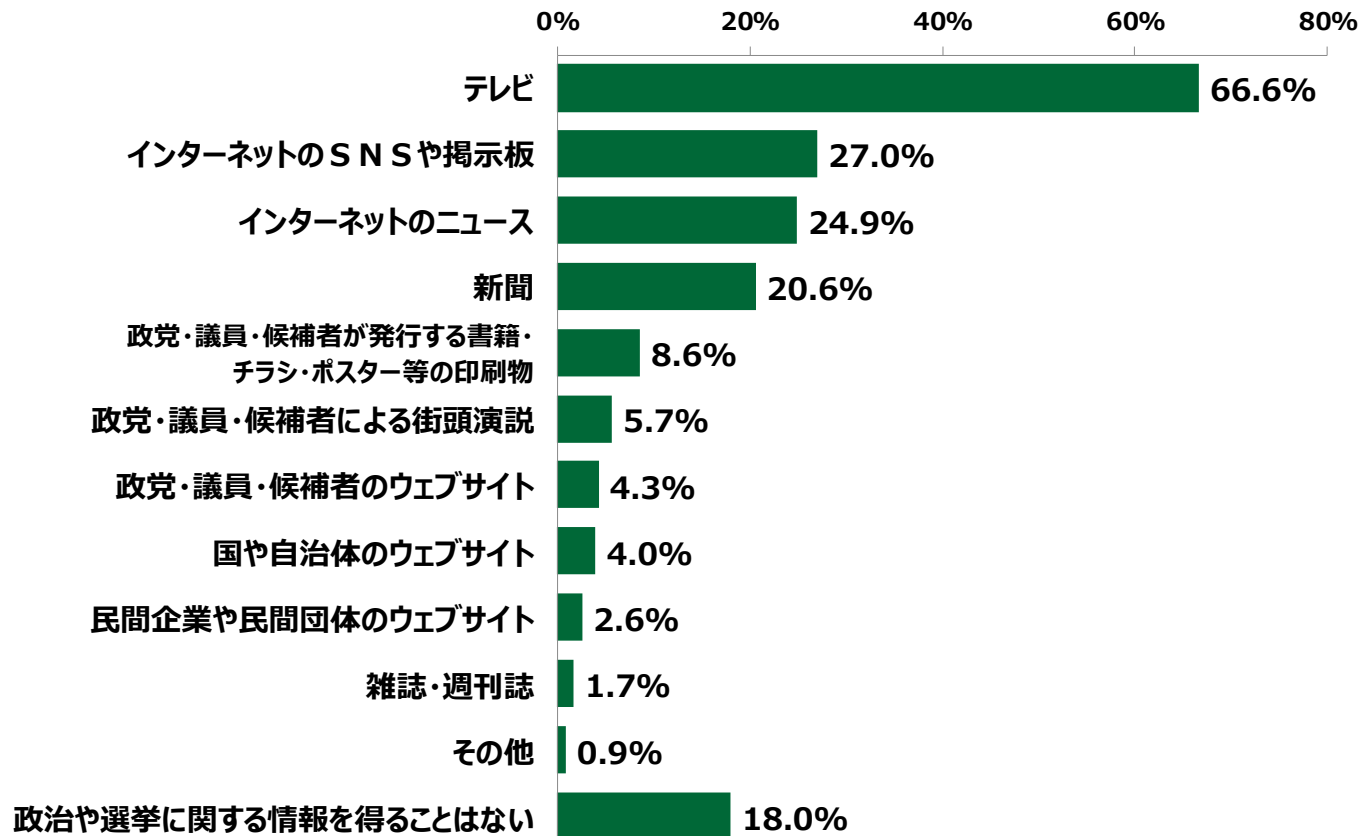
※上位10項目



政治や選挙の情報源

利用する頻度の高い情報源は、「テレビ」(66.6%)が最多。ほか、「インターネットのSNSや掲示板」(27.0%)、「インターネットのニュース」(24.9%)、「新聞」(20.6%)が上位に挙がる。

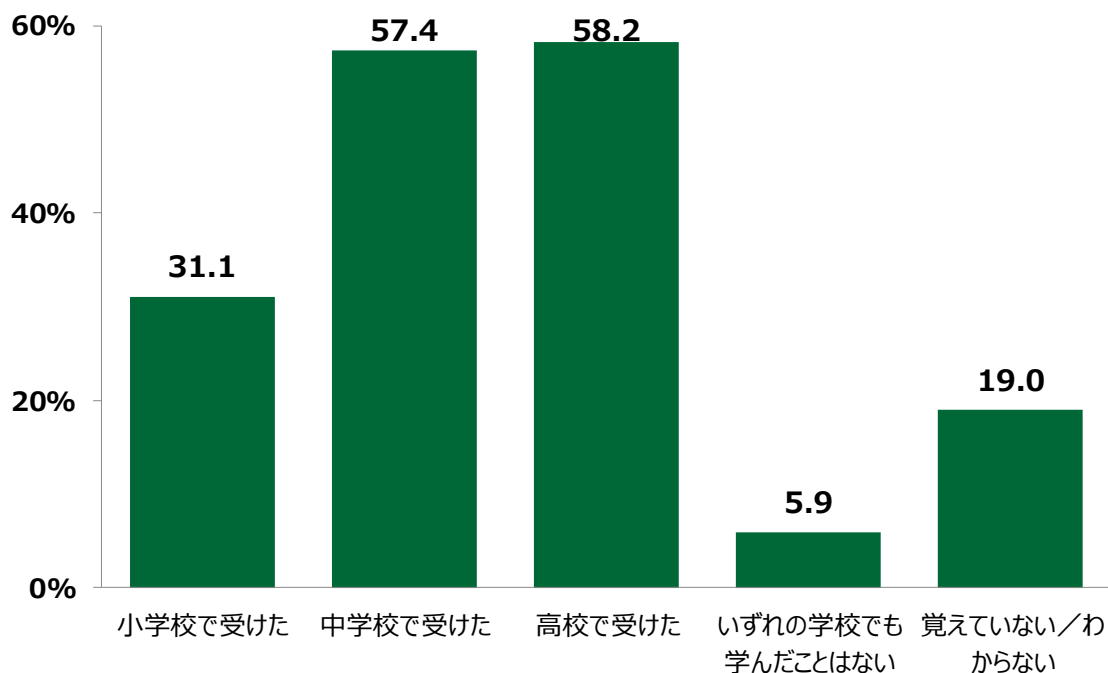
Q あなたが、政治や選挙に関する情報を得るにあたり、最も利用する頻度の高い情報源を、最大3つまで選択してください。
(複数回答 3つまで) (n=916)



政治や選挙に関する授業

政治や選挙に関する授業は、「高校で受けた」が58.2%、「中学校で受けた」が57.4%と、多くが中学校、高校で受けている。「小学校で受けた」は31.1%。

Q 小学校、中学校、高校で、政治や選挙に関する授業等（模擬選挙などの学校が主催して行われた活動を含む）を受けたことはありますか。思い当たるものをすべて選択してください。（複数回答）（n=916）

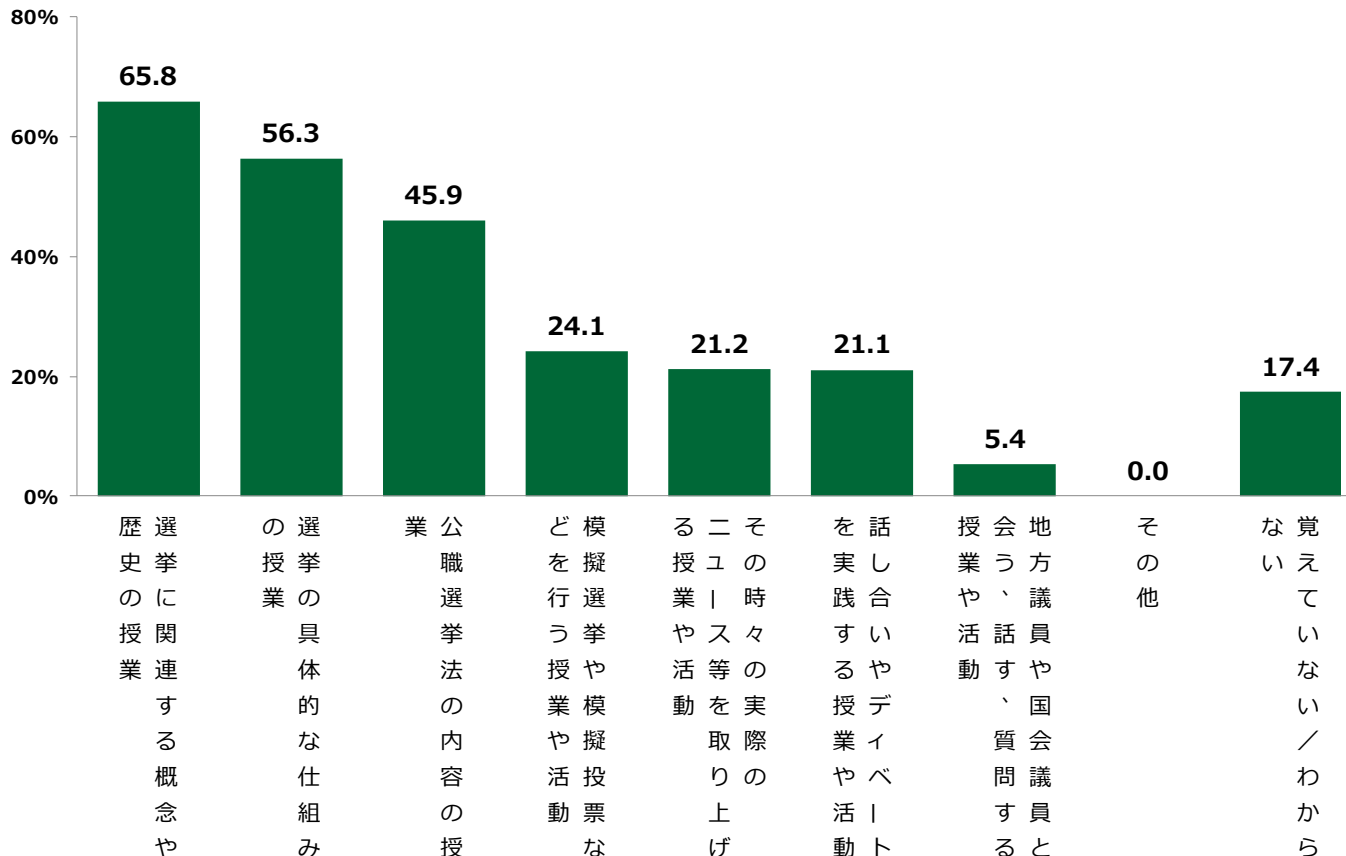


政治や選挙に関する授業で受けた授業内容

受けたことがある授業の内容は、「選挙に関連する概念や歴史の授業」(65.8%)、「選挙の具体的な仕組みの授業」(56.3%)、「公職選挙法の内容の授業」(45.9%)が上位に挙がる。

■政治や選挙に関する授業を受けたことがある方

Q 学校で行われた政治や選挙に関する授業等で、あなたが過去に受けたことがあるものについて、当てはまるものをすべて選択してください。(複数回答) (n=688)



政治や選挙に関する授業は役に立ったか

政治や選挙に関する授業について、65.1%の人が「役に立った」と回答。「役立たなかった」は8.0%。

■ 政治や選挙に関する授業を受けたことがある方

Q 学校で行われた政治や選挙に関する授業等は、あなた自身の選挙での行動（投票、政党・候補者選び、情報収集方法など）について考えるとき、役に立ちましたか。（n=688）

※以下「役に立った」のスコアには「どちらかという役に立った」、「役立たなかった」のスコアには「どちらかという役立たなかった」も含む。内訳は詳細版を参照。

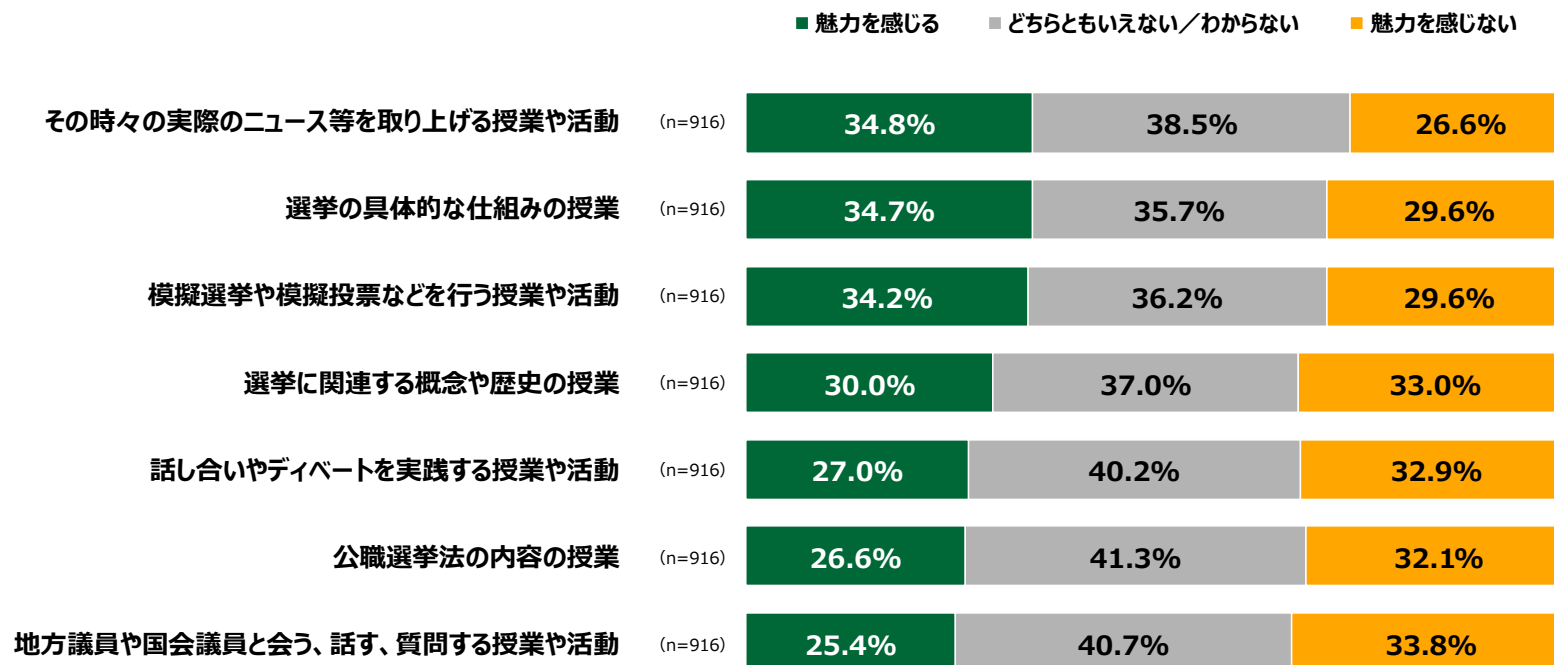


政治や選挙の授業で魅力を感じる内容

政治や選挙の授業で魅力を感じるという意見が多い授業の内容は、「その時々の実際のニュース等を取り上げる授業や活動」（34.8%）、「選挙の具体的な仕組みの授業」（34.7%）、「模擬選挙や模擬投票などを行う授業や活動」（34.2%）。

「その時々の実際のニュース等を取り上げる授業や活動」や「模擬選挙や模擬投票などを行う授業や活動」という比較的魅力度の高い内容について、授業で受けたことがある割合はそれぞれ2割強にとどまる（p.13参照）。

Q 以下の学校での政治や選挙に関する授業等について、あなたはどの程度魅力を感じますか。
実際には経験がないものであっても、もしあったらどう感じるかを選択してください。（各単一回答）



※ 「魅力を感じる」の比率の高い順に掲載

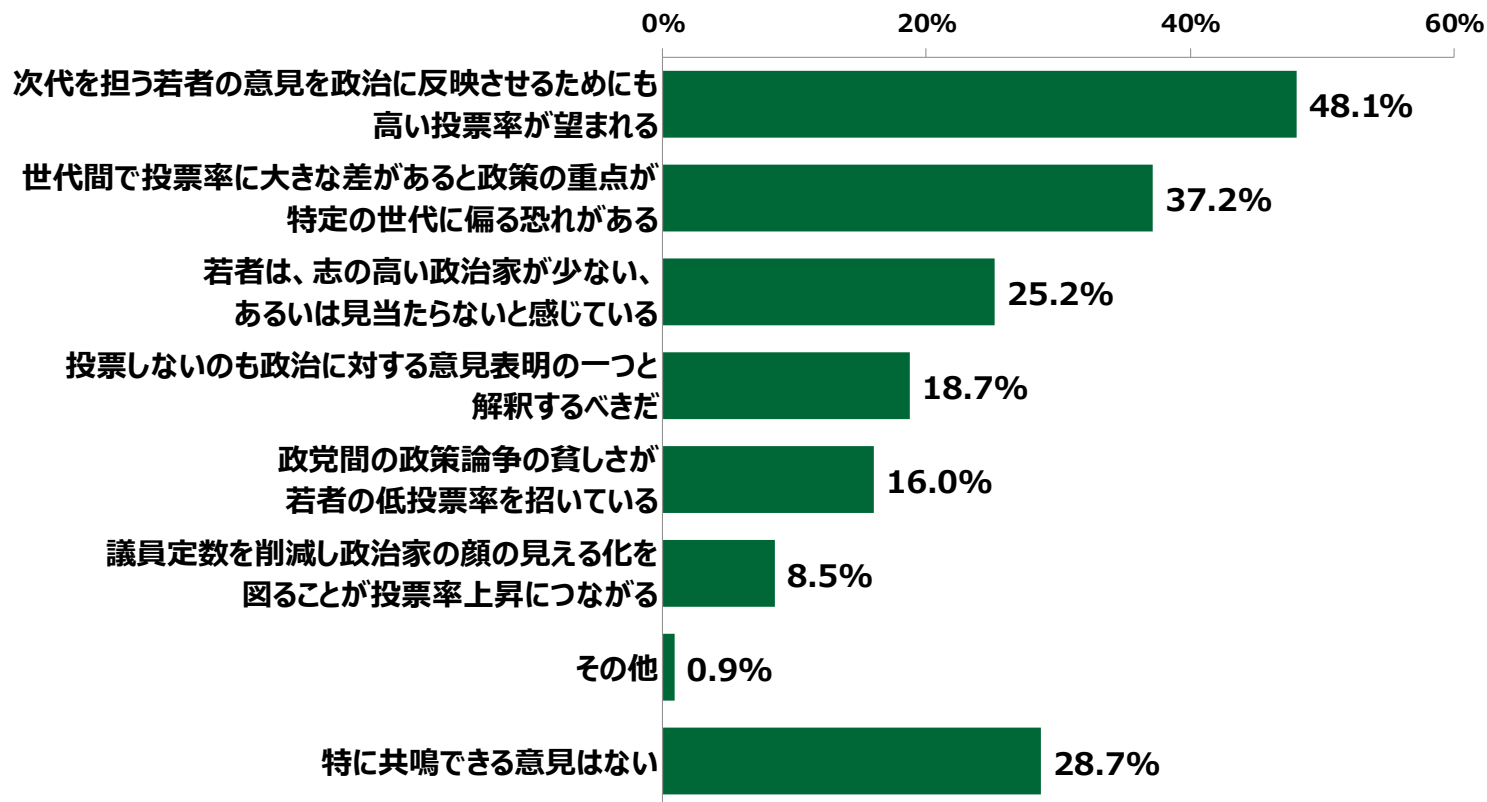
※ 「魅力を感じる」のスコアには「どちらかというとも魅力を感じる」、「魅力を感じない」のスコアには「どちらかというとも魅力を感じない」も含む。内訳は詳細版を参照。

若者の投票率に関する意見について

「次代を担う若者の意見を政治に反映させるためにも高い投票率が望まれる」（48.1%）が最多。次いで、「世代間で投票率に大きな差があると政策の重点が特定の世代に偏る恐れがある」（37.2%）、「若者は、志の高い政治家が少ない、あるいは見当たらないと感じている」（25.2%）と続く。

「特に共鳴できる意見はない」は28.7%。

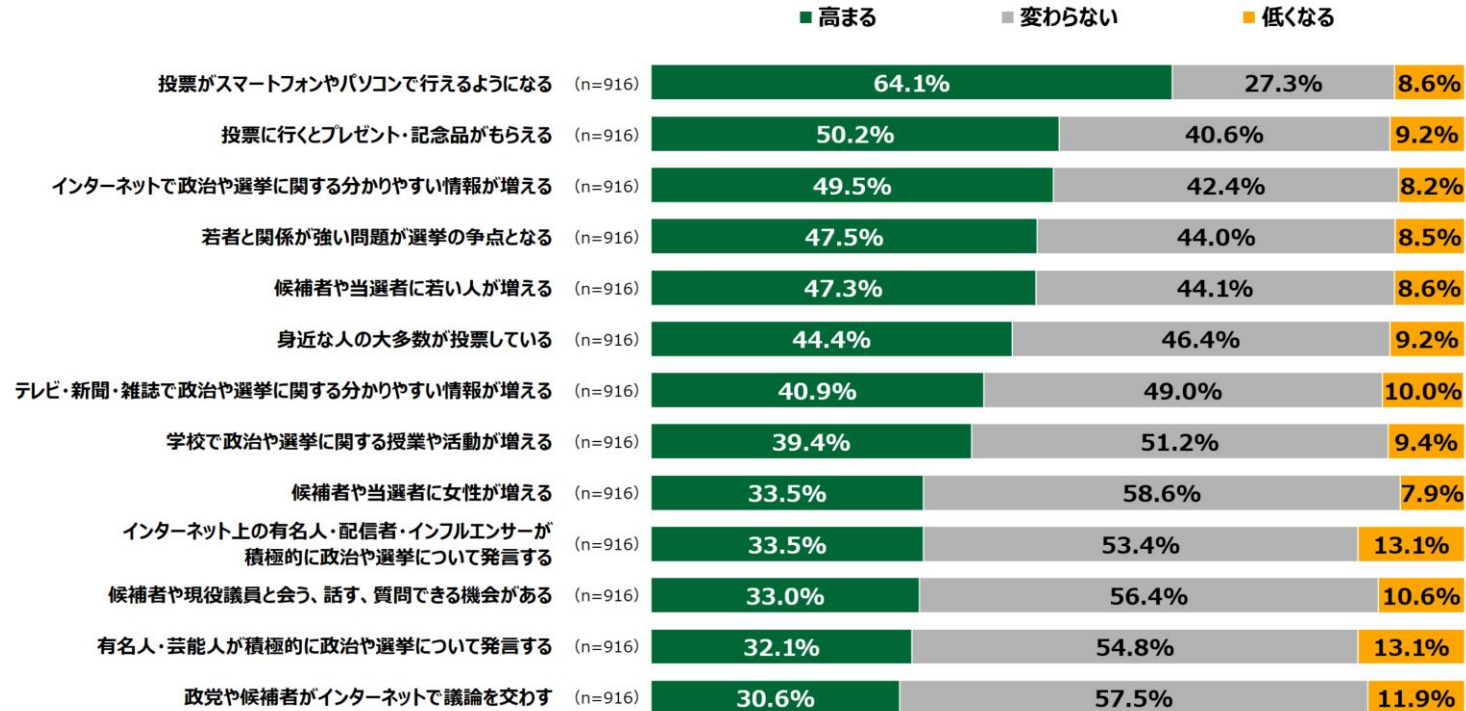
Q 日本では、他の世代に比べ若者世代の投票率の低さが目立ち、様々な意見や指摘がなされています。以下のうち共鳴できる意見や指摘があれば選んでください。（複数回答）（n=916）



若者の投票率を高めるための改革や改善について

若者の投票率を高めるための改革や改善について、意欲が高まると回答された比率が最も高いのは「投票がスマートフォンやパソコンで行えるようになる」(64.1%)。ほか、「投票に行くとプレゼント・記念品がもらえる」(50.2%)、「インターネットで政治や選挙に関する分かりやすい情報が増える」(49.5%)、「若者と関係が強い問題が選挙の争点となる」(47.5%)、「候補者や当選者に若い人が増える」(47.3%)などが意欲が高まる比率が高い項目。

Q 若者の投票率を高めるために、もし以下のような改革や改善が実現された場合、あなたの選挙への関心や投票への意欲は高まると思いませんか。若者一般ではなく、あなた自身の気持ちを想像して回答してください。(各単一回答)



※「高まる」の比率の高い順に掲載

※「高まる」のスコアには「どちらかというが高まる」、「低くなる」のスコアには「どちらかというに低くなる」も含む。
内訳は詳細版を参照。

社会問題重要度

2021年の衆院選において重視されるべき社会問題の1位は「保健衛生」（6.52点）。新型コロナウイルス等の感染症に関する問題が最も重要視されている。次いで、「経済成長と雇用」（6.30点）、「子育て・少子化」（6.25点）、「災害対策・復興」（6.22点）、「子どもの貧困」（6.14点）が上位に挙がる。

- Q 2021年に実施される衆議院議員選挙において、以下の各社会問題はどの程度重視されるべきだと思いますか。あなたが考える各問題の重要度を、1点から10点で表現してください。（各項目1点～10点）

※平均値の高い順に10項目掲載

全体 (n=916)		
1位	保健衛生 (新型コロナウイルス等の感染症、ワクチン、保健所など)	6.52点
2位	経済成長と雇用 (失業率、ブラック企業、働き方改革など)	6.30点
3位	子育て・少子化 (出生率、育休・産休、保育園、補助金など)	6.25点
4位	災害対策・復興 (地震、津波、台風・豪雨、国土強靱化など)	6.22点
5位	子どもの貧困 (教育や体験の格差、飢餓など)	6.14点
6位	教育・学校 (内容、質、教員の多忙、IT化など)	6.10点
7位	子どもの権利・保護 (児童虐待、児童ポルノなど)	6.09点
8位	税金・税制度 (消費税、法人税、所得税など)	6.08点
9位	社会保障・ヘルスケア (介護、年金、社会保険、医療費など)	6.01点
10位	成人・労働者の貧困 (ワーキングプア、生活保護、ホームレスなど)	5.93点

社会問題重要度

男女とも1位は「保健衛生」となった。男性は「経済成長と雇用」「災害対策・復興」「教育・学校」が上位に挙がる。女性は2位「子育て・少子化」、3位「子どもの権利・保護」、5位「子どもの貧困」と、子育てや子どもに関する問題をより重要視していることがうかがえる。

Q 2021年に実施される衆議院議員選挙において、以下の各社会問題はどの程度重視されるべきだと思いますか。あなたが考える各問題の重要度を、1点から10点で表現してください。（各項目1点～10点）

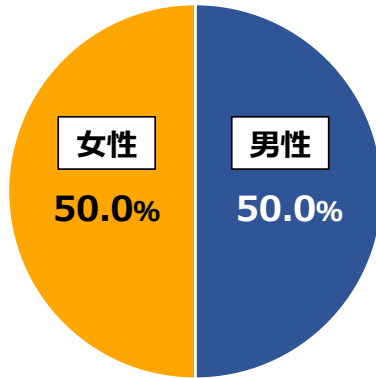
※男女ごとに平均値の高い順に10項目掲載

男性 (n=458)		
1位	保健衛生 (新型コロナウイルス等の感染症、ワクチン、保健所など)	6.67点
2位	経済成長と雇用 (失業率、ブラック企業、働き方改革など)	6.48点
3位	災害対策・復興 (地震、津波、台風・豪雨、国土強靱化など)	6.41点
4位	教育・学校 (内容、質、教員の多忙、IT化など)	6.38点
5位	子育て・少子化 (出生率、育休・産休、保育園、補助金など)	6.29点
6位	税金・税制度 (消費税、法人税、所得税など)	6.28点
7位	子どもの貧困 (教育や体験の格差、飢餓など)	6.18点
8位	社会保障・ヘルスケア (介護、年金、社会保険、医療費など)	6.16点
9位	政治と倫理 (政治とカネ、汚職など)	6.14点
10位	エネルギー (原子力、再生可能エネルギーなど)	6.13点

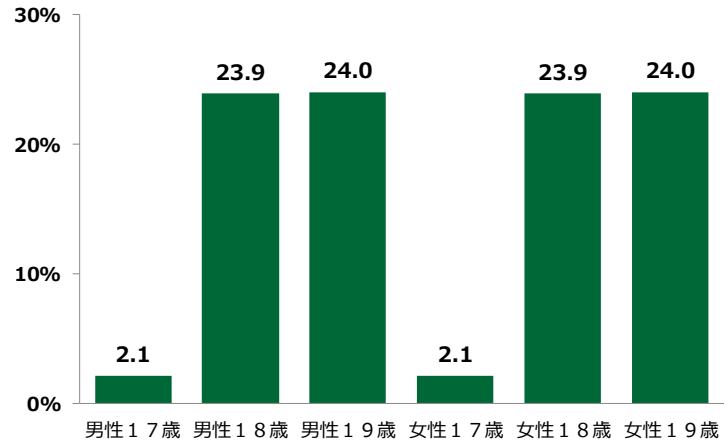
女性 (n=458)		
1位	保健衛生 (新型コロナウイルス等の感染症、ワクチン、保健所など)	6.38点
2位	子育て・少子化 (出生率、育休・産休、保育園、補助金など)	6.21点
3位	子どもの権利・保護 (児童虐待、児童ポルノなど)	6.13点
4位	経済成長と雇用 (失業率、ブラック企業、働き方改革など)	6.11点
5位	子どもの貧困 (教育や体験の格差、飢餓など)	6.10点
6位	LGBTQ・性的マイノリティの平等・自己実現 (差別、人権、同性婚など)	6.05点
7位	災害対策・復興 (地震、津波、台風・豪雨、国土強靱化など)	6.04点
8位	女性の社会進出 (男女同一賃金、管理職割合など)	5.92点
9位	税金・税制度 (消費税、法人税、所得税など)	5.88点
10位	社会保障・ヘルスケア (介護、年金、社会保険、医療費など)	5.85点

回答者プロフィール

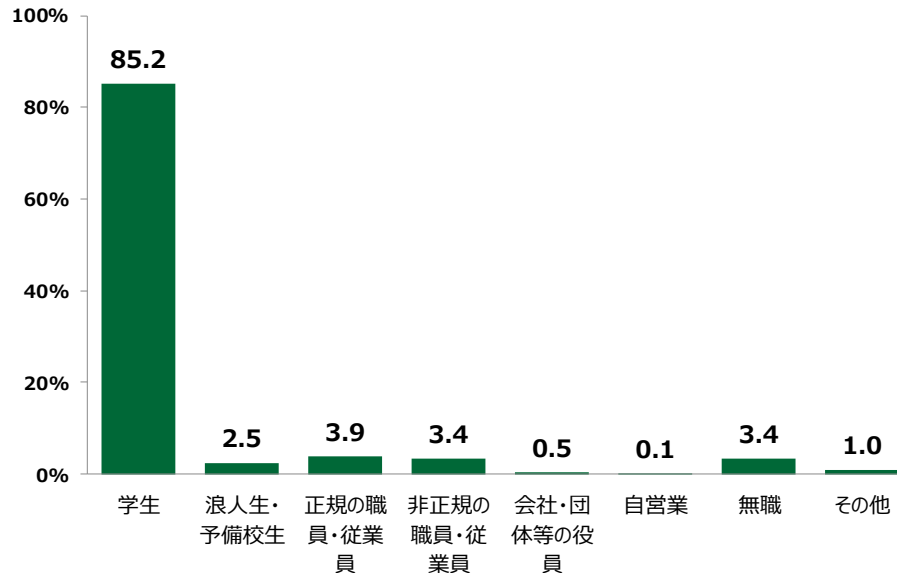
■性別 (n=916)



■性×年齢 (n=916)

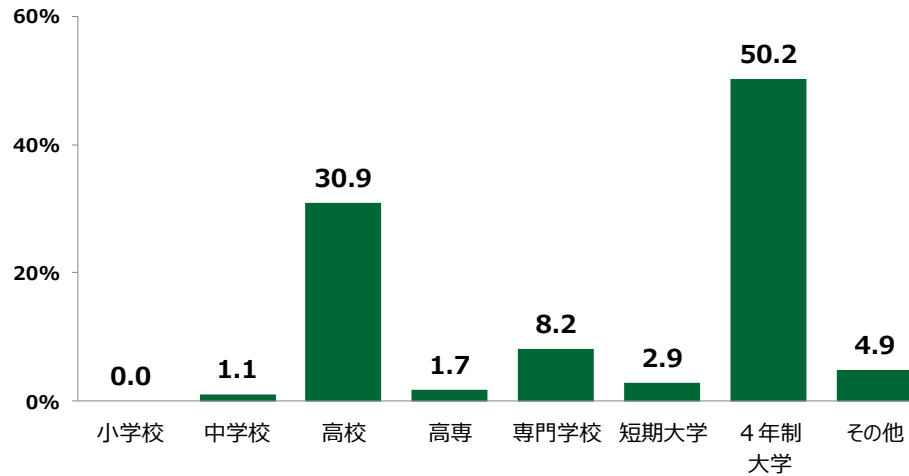


■職業 (n=916)



回答者プロフィール

■現在通っている学校または最終学歴 (n=916)



■高校在学中の方の高校卒業後の進路 (n=181)

